

高度な医療と傷が目立たない手術を目指す小児外科

簡単にいうと、内科に対して小児科があるのと同じで、外科に対して小児外科があります。ここでいう外科には、消化器外科、呼吸器外科、肛門科などが含まれますが、小児の頸部疾患、泌尿器科疾患、婦人科疾患、形成外科疾患なども治療の対象です。

新病院では重症な患児を管理するPICU8床が設置され、高度な手術の術前術後管理が可能となります。また、日帰り手術用の回復室が設置され、完全な日帰り手術を施行する予定です。



県立塚口病院 小児外科科長

片山 哲夫

日本外科学会指導医
日本小児外科学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本救急医学会認定ICLS
コースディレクター

対象とする疾患

小児外科領域疾患には、鼠径ヘルニア、虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、胆道拡張症、ヒルシュスプルング病などの腹部・消化器疾患、食道閉鎖症、小腸閉鎖症、鎖肛などの新生児疾患、小児固形腫瘍、外傷が含まれますが、泌尿器科領域(停留精巣、陰嚢水腫、水腎症など)、婦人科領域(卵巣腫瘍、陰唇癒合など)、耳鼻科領域(正中頸嚢胞、側頸嚢胞、咽頭梨状窩瘻など)の小児疾患も治療の対象です。

小児外科での治療・検査

鏡視下手術

鼠径ヘルニア、陰嚢水腫や虫垂炎に対しては、鏡視下手術で傷が目立たない手術を行っています。特に、虫垂炎には創部が臍部一カ所のみの手術を導入しています。

検査

ヒルシュスプルング病や胃食道逆流症に対し、内圧検査(直腸・食道)、胃食道24時間pHモニター検査、直腸粘膜生検検査を施行できます。細径気管支ファイバー・小児用硬性気管支鏡も整備され、気道系に対して幅広い診断・処置が可能で、小児用膀胱鏡による膀胱・尿道の検査も可能です。



左から：渡邊医師、片山医師、高田医師